

## 第2回佐賀市社会教育委員の会議 議事概要

### 1 開催日時

平成25年9月25日(水)午前10時00分～12時00分

### 2 開催場所

佐賀市大財別館4-1会議室

### 3 出席した者の氏名

#### ○社会教育委員

大久保美奈子、木原久美子、伊東悦子、平川哲男、松尾美千代、上野景三、田口香津子、谷口仁史、寺崎久枝、池田直（宮崎昌憲委員は欠席）

#### ○事務局

中島社会教育副部長兼社会教育課長

【青少年課】百崎課長、江頭副課長兼子どもへのまなごし運動推進室室長、徳永青少年指導係長

【社会教育課】小林副課長兼公民館支援係長、中野社会教育係長、古賀庶務係長、水田公民館支援係主査、栗山社会教育係主任

### 4 傍聴者

1名

### 5 議題

今後の西与賀コミュニティセンターの役割について

### 6 内容

#### ○質疑応答

- ・ 天体関係については土曜日だけなのか。  
→定例の観望会は週1回、土曜日だけ開催している。
- ・ 天体ドーム以外の開館時間はどうなっているのか。  
→開館時間は全部屋、朝9時から夜9時までとなっているが、特別観望会のときなどは必要に応じて延長して開館している。
- ・ 日新公民館はコミュニティセンターが併設されているが、利用についてルールが書いていない。どういう運営となっているのか。  
→基本的には公民館の一つの部屋として運用している。利用の手続き等も公民館事務室で行う。

#### ○主な意見

##### 佐賀市のコミュニティセンターについて

- ・ 「西与賀コミセンをどうするか」ということと、「佐賀市のコミセンをどう位置づけるのか」という二つの議論をしなくてはならない。
- ・ 西与賀公民館があったからコミュニティセンターとしてうまくいかなかったのか、それとも他のコミセンも問題を抱えているのか、もう少し分析をした方がよい。コミュニティ形成の拠点は西与賀公民館であると言い切ってしまうと、コミセン自体は存在意義を失ってしまう。
- ・ 西与賀に限らず、コミュニティセンターの職員の研修や専門的な資質の向上ということも合わせて考えていかなければならない。

##### 天体に特化する方向性について

- ・ 天体望遠鏡を使いたいときに使えないというのは問題。例えば天文協会を指定管理者にすれば、常に施設に専門家がいて、利用度も上がると思う。
- ・ 天体観測だけではなく、例えば宿泊を組み合わせるとか、何かしらの体験活動としていく必要が

ある。

- ・天体の施設に特化するのであれば、指定管理にしても直営にしても、こういった施設の維持管理というのは、専門家に任せなければならないだろうという方向性はでてくる。
- ・方向性には異論はないが、専門的な体制、夜間利用時間の延長、必要な設備も考える必要がある。

#### 学校との連携について

- ・天体だと、夜のイベントは親が連れていける子どもだけの参加になり、そこに学校の授業としてみんなが同じように出席するというのはかなり難しい。
- ・昼間の太陽の観察と同時に、虫や月の観察などについても学べるような手立てがとられれば、授業として活用できるかもしれない。
- ・利用率を上げるには、学校教育との連動というのはとても重要。天体望遠鏡の操作方法等を理科の先生がまず学び、その先生を授業の中に組み入れていくような努力は今でもできないか。
- ・小学校から行くには交通手段や教室の問題がある。西与賀小学校の子ども達なら歩いて行けるが他の学校は厳しい。
- ・天体に特化していろんなノウハウを集約し、それを教材として各学校で活用するなどできないか。
- ・子ども達への教育機会の提供、周知・広報の徹底を考えなくてはならない。

#### その他

- ・こんな施設があることを全く知らなかった。知っていれば夏休みなど利用したと思う。もう少し周知・宣伝をしてほしい。
- ・音響設備が配慮されていない施設もあるので、今後音響設備等も配慮してもらいたい。
- ・佐賀市の教育委員会の「ふるさと学習」事業が使えるかわからないが、もし活用して少しでも知ってもらえたら、興味がある子は家族と行ってみようと、生涯学習につながるような活用になる。

#### (事務局)

佐賀市のコミュニティセンターは、日新・川上・春日については職員を配置して公民館事業を行い、富士南部・北部については、どちらかという地域の寄り合いの場として、自由にコミュニティ活動ができるという形でコミセンを設置している。実態として、それぞれコミセンの性格が違っている。コミセンに限らず、公民館・生涯学習センターなど、公民館事業を行っている施設の職員体制や位置づけ等を今後整理していく。

西与賀については、コミュニティセンターの設置後、小学校の近くに西与賀公民館を設置したため、コミュニティ活動は公民館で行われ、コミュニティセンターとしての役割・機能というのが浮いたようなかたちになったというのが現状。

子ども向けの利用、開館時間の延長、臨機応変な対応などができるよう、直営や指定管理等の運営体制を検討し、有効に活用できる方向を考えていきたい。

○各課からの報告

- (1) 社会教育活性化支援事業について
- (2) 今年度事業に対する中間報告について
- (3) 平成 25 年度まなざしキラリ賞の募集について

○各課からの報告に対する意見

(まなざし運動に関連して) 地域の伝統行事に参加する子どもが少ない。地域活動の継続、大切さの指導が非常に難しい。若い保護者に地域活動の大切さなどを教育・指導するような活動は社会教育の関係課でどこかやっているのか。

(事務局)

平成 18 年から「市民性をはぐくむ教育」で、子ども達の出番・役割づくりや、地域で子どもを育てる環境醸成に取り組んでいる。平成 22 年度からは「地域元気アップ事業」で、子どもを育む中で団体間をつなごうという取り組みをしている。子どもが少なくなって、子どもの奪い合いにならないよう、団体が協力して事業を行う活動である。地域の伝統的な行事でも取り組んでもらっている地域もある。